

平成 20 年度入学者選抜学力検査問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて7ページです。
また、別に解答用紙が、(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。
また、特に指示のあるもののほかは、各問いのア、イ、ウ、エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を解答欄の()の中に書き入れなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

受 検 番 号

番

1

次の1から7までの問いに答えなさい。

1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

(1) 心が弾む。 (2) 困難を克服する。

(3) 柔らかな日差し。 (4) 道幅が狭まる。

(5) 会議が円滑に進む。

2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。

(1) 友人に手を力す。 (2) オウフクはがきを買う。

(3) ハタを振って応援する。 (4) 話題をテイキョウする。

(5) キンベンな生徒。

3 「栃木県は豊かな自然に恵まれている。」という文を文節に区

切った場合、正しいものはどれか。

ア 栃木県は／豊かな／自然に／恵まれている。

イ 栃木県は／豊かな／自然に／恵まれて／いる。

ウ 栃木県／は／豊かな／自然に／恵まれ／ている。

エ 栃木県／は／豊かな／自然に／恵ま／れ／て／いる。

4 次のうち、一つの意味にだけ読み取れ、解釈をする上で誤解が生じない文はどれか。

ア 先生と生徒十人で志望校の学校説明会に参加する予定だ。

イ 午後三時にこの地区一帯が停電するという連絡があった。

ウ 明日の夜私は兄と市営球場へ野球の応援に行くつもりだ。

エ 隣の花火大会で浴衣のよく似合う友人の姉を見かけた。

5 次の文章は、ある中学生が、小学生のときの担任の先生にあて

て書いた手紙の一部である。文章中の——線の部分のうち、敬語の使い方が最も適切なものはどれか。

さて、来る九月十五日にA中学校の体育祭が催されます。私たちの成長した姿を先生に見てくださりたいと思い、体育祭のプログラムをお送りいたします。お忙しい毎日をお過ごしのことと思いますが、皆も先生にお会いになりますことを楽しみにしておりますので、ぜひお見えになられてください。

6 「枝」の部首(偏)と組み合わせるとき、漢字として成り立つものはどれか。なお、「」の中の漢字は行書で書かれている。

〔ア 主 イ 足 ウ 虫 エ 舎〕

7 次の□の中の熟語の上には、打ち消しの意味を持つ共通の語がつく。その語を漢字一字で書きなさい。

常識 公開 合法

2

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

(注1) 唐土 (注2) 梁の帝 狐に出で給ふ。白き雁ありて田の中に下り居たり。帝みづから弓に矢をはげ、これを射んとし給ふに、道行き人ありて、これを知らず白雁を追ひたて侍り。帝大いに怒りて、その人をとらへて殺さんとし給ふところに、公孫龍といふ臣下いさめていはく、「昔、衛の文公の時、天下大いに日照りすること三年なり。これを占はせらるるに、いはく、一人を殺して天にまつらば雨ふるべし、と。文公のいはく、雨を求むるも民のためなり。今これを人を殺しなば、不仁の行ひ、いよいよ天の怒りを受けん。この上は、われ死して天にまつらん、とのたまふ。その心ざし天理にかなひ、たちまちに雨ふりて、五穀ゆたかに民さかえたり。今、君この白雁を重んじて人を殺し給はば、これまことに虎狼のたくひにあらざるや。」と申しければ、帝大いに感じて、公孫龍をたふとみ給ひけり。

(注1) 唐土 中国の古い呼び名
 (注2) 梁 古代の中国の国の一つ
 (注3) 衛 古代の中国の国の一つ

1 いはく は、現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 ⁽¹⁾これ が指している内容を二十字以内の現代語で書きなさい。

3 不仁の行ひ とあるが、どのような行為か。

ア 雨を降らせるために、民の命を犠牲にしようとする行為。
 イ 白雁の命の方を重んずるあまり、人を殺そうとする行為。
 ウ 楽しみのために、罪のない動物の命を奪おうとする行為。
 エ 占いの内容に怒り、占った人を天にまつろうとする行為。

4 のたまふ 重んじ 申し について、それぞれの主語にあたる人物の組み合わせとして適切なものはどれか。

ア 公孫龍 — 梁の帝 — 文公
 イ 梁の帝 — 公孫龍 — 文公
 ウ 文公 — 梁の帝 — 公孫龍
 エ 梁の帝 — 文公 — 公孫龍

5 公孫龍が帝に伝えようとしたことはどれか。

ア 人の上に立つ者は、占いに背いても、天からの怒りを買わないようにするべきだ。
 イ 人の上に立つ者は、時には虎狼のように残虐な行いをしてでも、民を守るべきだ。
 ウ 人の上に立つ者は、国を豊かにするため、臣下の忠告を素直に受け入れるべきだ。
 エ 人の上に立つ者は、自分本位の行動を慎み、常に民を大切に思う心を持つべきだ。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。①～⑦は形式段落の番号である。

① ことばの働きは不思議である。ことばは外の世界に名前を与えること(注1)で外の世界を範疇(はんちゆう)化し、外の世界を理解する(知る)。

(注2)

「石」の例でも述べたように、(注3)混沌(こんとん)とした感覚表象を交通整理し、

(1)

一つの名前「イシ」にくることで、数多くの具体的で、かつかた

ちが少しずつ違う石ころをすべて、

(注4)

一つの概念表象「石」に収斂(しゆうれん)

させることができる。客観世界の多様な表象に一つの秩序をもたらすことができる。

② 外界に与えられる秩序は、すなわち、自己の心にもたらされる秩序である。 **A**、混沌たる外界は実は外界ではなく、そ

れを表象している心そのものだからである。

③ まったく同じように、ことばは内なる世界(心)に生起する多様

なる現象に名前を与えることで、心の諸現象を範疇化し、かたち

あるものとして表象することができる。(2)名前は理解の一つの形式

なのである。相手に対する自分でも理解できないむしろしゃし

た感情を「怒り」とまとめられるのは、ことばのおかげである。い

や、怒りではない「あせり」だとまとめることができるのも、こと

ばの働きである。あるいはそのむしろしゃした心の動きを人間

関係の中で整理したならば、「嫉妬(しよと)」とまとめられるかもしれない

い。感情に与えられたこれらの名前は、感情を分類する力を持つ

だけでなく、それがそのまま自分と世界を関係づけ、その関係を

理解する手立てとなる。

④ このように、ことばは心が生成する表象や、非表象性の変化(感情など)に名前を与えることによって、心を分類し整理する。

ことばはそもそも心を記号化する働きでありながら、できあがった記号が今度は心そのものをその記号に従わせるのである。こうしてことばは心を組織する重要な手段となる。

⑤ ただし、心が外部由来や内部由来のさまざまな表象に名前を与えるといつても、相手あつてのことである。自分一人で名前を生産しても、相手に理解されないものであれば、それはことばではない。ことばがことばとして働きうるのは、そのことばが一つの社会に共有されているときである。

⑥ 相手と共通のことばを使うことで、それまでは個体の中に閉ざされたままであつた経験が、他者に伝えられる。共通の約束事であるからこそ、一人の口を出たことばは、それを聞いた一人あるいは複数の人の心にも、同じ表象を喚起することができる。(3)一人の心は、ことばを媒介にして、他者の心へ開示されるのである。

⑦ ただ困つたことに、ことばは心理表象そのものではない。あくまでそのラベルである。記号である。ここをしっかりと理解しておかなければならない。 **B**、ことばはその人の真実の内面

を伝えることができるばかりではない。まったくの虚偽を伝える

こともできる。そこにはないものを伝える、ということばの働き

は、嘘(うそ)をその本質とする、という危険な側面を持つている。犯罪

者が「私はやっていない」と述べた場合、それは事実を伝えたこと

ばではない。同様に無実の人が「私がやった」と自白した場合も、

そのことばもまた事実を伝えていない。客観的な問題としてなら「黒は白でない」が、言語としてなら、「黒は白である」と述べることは可能である。

(山鳥重「ヒトはなぜことばを使えるか」から)

(注1) 範疇化||同じ種類のものに分類・整理すること。

(注2) 「石」の例でも述べたように||以下の「混沌とした……:収斂させることができる」と同様の説明が本文直前の章で述べられている。

(注3) 混沌とした感覚表象||五感を通して感じる漠然としたイメー

(注4) 一つ概念表象「石」に収斂させる||「石」という一般的なイメー

ジにまとめる。

1 ① 一つの名前「イシ」にくくる とあるが、このことによつてどの

ようなことが可能になるか。最も適切なものを選びなさい。

ア いくつもの石ころを、その「石」の性質ごとに選別できる。

イ いろいろな石ころを見て、それらが「石」だと認識できる。

ウ 一つ一つの石ころを、すべて別の「石」として区別できる。

エ たくさんの石ころの中から、以前見た「石」を特定できる。

2 A、B に当てはまる語の組み合わせとして適

切なものとはどれか。

ア A なげなら B たとえば

イ A つまり B それから

ウ A あるいは B しかし

エ A むしろ B ただし

3 ② 名前は理解の一つの形式 とあるが、感情に名前を与えるという例において述べられている名前の役割は何か。三十五字以内で書きなさい。

4 ③ 一人の心は、ことばを媒介にして、他者の心へ開示される とあるが、ことばが媒介となるのは、どのようなときか。本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

5 右の文章において、⑤段落の果たしている役割はどれか。

ア ①段落から④段落の内容を踏まえ、新たな観点を取り入れて論を発展させている。

イ ①段落から④段落の内容を確認し、例外的な状況を取り上げて反論を試みている。

ウ ①段落から④段落の内容をまとめ、同様の例を繰り返して主張を明確にしている。

エ ①段落から④段落の内容を否定し、逆の立場から改めて問題をとらえ直している。

6 本文の内容を説明したものとして最も適切なものはどれか。

ア ことばは、人間が社会を形成する上で便利な道具であるが、危険な側面もあるので、社会の中では必要のないものである。

イ ことばは、情報の速やかな伝達を可能にしているが、心理的な問題については常に正しい内容を伝えているわけではない。

ウ ことばは、人間がさまざまな物事を認識し伝達するために重要な働きをしているが、いつも真実を伝達するとは限らない。

エ ことばは、他者と心を共有する唯一の手段であるが、伝達する内容の正確さは人間の認識の仕方に左右されることがある。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

古本の仲介を仕事とする父を持つ瀬名垣太一は、ある日、親友の本田真志喜の父が経営する古書店『無窮堂』の書庫で、幻の本と言われる品山花屏の『獄記』を見つける。

「ねえ、おじさん。この本、おれたちにくれないかな。」

すごい宝物を見つけた誇らしさと、大事な真志喜とそれを分け合えるという嬉しさをいっばいだった。父親が店を開きたがっているのは知っている。『獄記』を売れば、開業資金くらい軽く手に入るだろう。「せどり」と父親を見くびる古本屋連中を、きつと見返すことができる。瀬名垣は「世紀の掘り出し物」が、自分のまわりにどんな波紋をもたらすのかをちつとも考えずに、その幻の本を高々と掲げてみせた。

瀬名垣がかざした本を、『無窮堂』の店主だった真志喜の父親はちらりと見た。そしてぞんざいに、

「ああ、どうせ捨てる本だ。欲しければ持っていくといい。」

と言った。瀬名垣は心に快哉を叫んだ。

そのとき、傍らで瀬名垣の父親と雑談していた本田翁が、穏やかに声をかけてきた。

「太一、その本をちよつと見せておくれ。」

瀬名垣はもちろん、本田翁に見せたくなかった。目利きの評判をほしいままにする翁は、この掘り出し物の価値をさすがに一目で見抜くだろう。そうなったら、この本は取り上げられてしまう。ためらっていると父親が、「さつさと翁に渡せ。」としきりに目で合図する。誰のためにこれを自分のものにしてしようとしているかわかっている。

のかなあ、と苦々しく思いながら、仕方なく本田翁に手渡した。『獄記』を持つ本田翁の手は震えた。そして翁は、瀬名垣をひたと見据えた。

「これがなんなのか、わかっているのか、太一。」

常に優しい老人が、これほど鋭く真剣な眼差しを瀬名垣に向けたのは初めてのことだった。瀬名垣はなんと答えるべきか困った。だが結局、誇りも手伝って、「うん。」と一言、はつきりとうなずいた。本田翁は笑った。

「見事じゃ、太一。おまえは本当に頼もしい男だ。わしですらこうして震えがきているというのに、おまえはわかっていてなお動じもない。」

本田翁は『獄記』を瀬名垣の手に返した。瀬名垣はまさか戻してもらえるとは思っていなかった。本田翁の深い皺の刻まれた顔をまじまじと見つめた。本田翁はもう一度噛みしめるように言った。

「見事じゃ。」

瀬名垣の父親は、息子の手にある古びた本と敬愛する老人の顔とを忙しく見比べた。

「一体なんの話ですか、翁。」

真志喜の父親も、本を束ねていた手を止めて歩み寄ってくる。

「どうなさったんです、お父さん。」

「みんな、よく見ておきなさい。真志喜もおいで。」

瀬名垣のまわりに、居合わせた人間が集まった。瀬名垣は、今までつないだままだった真志喜の手を引き寄せる。本田翁のおごそかな声が響いた。

「これが幻の本。『獄記』だ。」

声にならない動揺が、二人の父親たちの間を走り抜けた。

「はあ、これが……。」

ようやく瀬名垣の父親の口から間の抜けた感嘆の声が上がったとき、真志喜の父親は⁽⁵⁾ついと表に出ていった。

「あ、本田さん……。」

瀬名垣の父親の呼び止める声も聞こえないようだ。本田翁は肩を落とした。

「放っておいてやってください。瀬名垣さん、あんたもわかるでしょう。『無窮堂』は十二歳の男の子に、この世に一冊しか^(注5)ない稀覯本^(注5)を掘り出されたんじゃ。」

(三浦しをん「月魚」から)

(注1) せどり||自分の店を持たず商品の仲介のみをする古本業。

(注2) ぞんざいに||丁寧でないこと。いい加減。

(注3) 快哉を叫ぶ||とても愉快に思うこと。

(注4) 本田翁||真志喜の祖父。瀬名垣の父親も世話になっている。

(注5) 稀覯本||まれにしか手に入らない、とても珍しい書物。

1 目利き⁽¹⁾の評判をほしいままにする とは、どういうことか。

ア 書物を鑑定する能力がほしくてたまらずにいるということ。

イ 書物を鑑定する能力を誰からも認められているということ。

ウ 書物を鑑定する能力の高さをひけらかしているということ。

エ 書物を鑑定する能力にいつも磨きをかけているということ。

2 苦々しく思いながら⁽²⁾ とあるが、瀬名垣はなぜ苦々しく思ったのか。四十字以内で書きなさい。

3 誇りも手伝つて⁽³⁾ とあるが、誇りの内容として最も適切なものはどれか。

ア 本田翁に自分の能力の高さをほめられたこと。

イ 父親の店の開業資金を自分一人で稼いだこと。

ウ 自分自身で価値のある書物を掘り出したこと。

エ 父親を見くびっていた人たちを見返せたこと。

4 本田翁は笑った⁽⁴⁾ とあるが、それはどうしてか。四十字以内で書きなさい。

5 ついと表に出ていった⁽⁵⁾ とあるが、真志喜の父親が突然出ていったのはなぜか。

ア 古書店主としてふさわしくないと周囲の人が言ったから。

イ 自分の好意に瀬名垣がつけ込んだことに気がついたから。

ウ 本田翁が無断で瀬名垣の父親に店を譲ることにしたから。

エ 書物を鑑定する自分の力量のなさを思い知らされたから。

6 本文における表現の効果について説明したものと、最も適切なものはどれか。

ア 登場人物の人生観や古い慣習を表現する際に、慣用句が効果的に使用されている。

イ 物語の雰囲気や時間の経過を表現する際に、情景描写が効果的に使用されている。

ウ 登場人物の立場や状況の特殊性を表現する際に、⁽⁶⁾比喩が効果的に使用されている。

エ 場の緊張感や登場人物の心情を表現する際に、擬態語が効果的に使用されている。

次の三人の会話の内容を参考に、「個性」についてあなたの考えを書きなさい。

なお、自分の考えとその理由を明確にすること。また、国語解答用紙(2)に、二百四十文字以上三百字以内で書くこと。

友子さん 最近、個性の尊重とか、個性の主張という言葉

耳にするわね。

明夫さん そうだね。でも、個性の主張って言うけれど、個性って誰にでもあるわけじゃないよね。優れた才能のような、何か特別なものを持っている人だけにあ

るものじゃないかな。

友子さん そうかしら。個性って誰にでもあるものだと思うわ。一人一人の顔が違うように、才能や性格も一人として同じ人はいないもの。

健二さん どうも二人の個性に対する考え方は食い違っているような気がするな。それよりも、個性って主張するものなのかどうか、その方が僕は気になるな。

明夫さん 当然、個性は大切だし、主張するべきだと思うよ。

友子さん 個性って主張するものなのかしら。自分勝手なことをして、個性と勘違いしている人もいるわよね。

健二さん 主張の仕方の問題なのかもしれないね。